

# 堂々、伊勢街道



た(豊中市史古文书古記録第25号)、例外的に「抜け参り」は、帰参時に抜参宮届なるものを提出することによってその不履行が半ば黙認されていた(同第25号)。

一方、往来手形も十分な旅費もなく、どうやって出かけたかは不思議であろうが、道中、食物などは施行(せきよう)がなされ、のちには頭に笠、手に柄杓というお蔭参りの装束が一般化し、「おかげ師」も流行したらしい(百科事典マイペディア)。

## 伊勢街道

このような様子であったから、自ずと各地から伊勢神宮へと続く道すじができてきた。道に違いない。特に、所謂五街道や近隣の幹線道から三重県あたりにはいると、全ての道はお伊勢さんに続くとはかりに迷わず行きつめるよう接続されていたとみえ、「伊勢街道」で検索すると伊勢園内にはいくつものルートが表示される。

一方、地方でも「伊勢街道」を耳にするが、必ずしも地図に表示されていたり、ネットで直ぐに挙がってくるのではなく、ある種、都市伝説化しているように映る。

## 都市伝説?

曾根も例外ではない。年配の方の中には、「伊勢街道」という言葉を耳にした方がいらつしやるが、比較的若い方にはピンとこない。地図を見て、電柱を見ても標識を見ても、そういった文字は見当たらない。昭和の時代に使われていた「伊丹街道」や「産業道路」といった名前もそうだろうか。知っている方は、しっかりと豊中で昭和を生きてきた方に違いない。閑話休題。「西国街道」や「能勢街道」の情報は少なくないし、地図にその名称を見出すこともあるが、「伊勢街道」となる情報を得ることは容易ではなくなっている。しかし、それは換言すれば、「知る人ぞ知る伊勢街道」を意味し、曾根の歴史の探求心に火がつくことになった。

## 目が点に

かつて、市立第一中学校(以下、一中)の校庭を二本の道が走っていたという。そう、現在東西にある通用門を結ぶように伊勢街道が通っていたというのだ。また、以前、曾根東町にある西琳寺東側の常夜燈「おかげ燈籠」が伊勢街道の道標となっていたという話を思い出した(本紙第十三号)。



## 点が線に

令和に入つて間もない五月の二十日、新千里東町、市立東丘小学校内にある市の郷土資料室を訪ねた我々は、若竹町にある住吉神社にも「おかげ燈籠があることを知る。現在その燈籠は小高くなった神社境内の南側に二対あるが、往時の街道が近くを通っていたことを思わせた。

さらに、プロク「北摂の街道・道標その歴史を後世に伝える」(2012.05.05)では、現在のさわ病院玄関前を西に向かい、藤井寺の北側を通り、国道を越えて西琳寺前のある「おかげ燈籠」までを伊勢街道とされており、その後、芦田ヶ池(現在は埋め立てられており、文化芸術センター)、「阪急の線路を横切り、中の校庭を横切った道があったこと、そして、法華寺にぶつかり原田に入る」ことが記されている。

## 西の端は

どうやら、伊勢街道が一中の校庭を通っていたことは疑いないようだが、それは、その道はどこまで続いたのか。ここでは先の郷土資料室で得た情報が役立つ。大字曾根の八幡神社が明治四十年に原田神社に合祀されたという情報を得たのである。明治時代に神仏分離が判然とさ

## 伊勢参り

「生に二度は伊勢参り」。信仰の高まる中、庶民の間では、老若男女、貴賤貧富を問わずにこういった慣習が起つた。東から西から伊勢神宮に向かい人が集まる。人が通れば道ができ、道標が置かれ、そして宿泊所も設けられる。江戸時代中期以降、参拝者が年間数百万人との史料もある中、大坂の町民も例外ではなく伊勢を指した(朝日新聞朝刊奈良版)。

江戸から片道十五日、大坂からでも五日の道のりと、ひと月近くの給与に匹敵しやうかという旅費を要する旅であったため、伊勢参りのために人々は積み立てをしていくと聞く。旅費のたまった者から「旅行」に出かけられるのだが、自分の順番がまわってくるのは凡そ人生の半ばを過ぎてから、やもすると晩年になつてからというところもあつたのではないだろうか。

## おかげ参り・ぬけ参り

しかし、順番など待てられない時があるもの。だ。豊作も商売繁盛も伊勢の神の「おかげ」との由縁から「おかげ参り」とも呼ばれる伊勢参り。江戸から片道十五日、大坂からでも五日の道のりと、ひと月近くの給与に匹敵しやうかという旅費を要する旅であったため、伊勢参りのために人々は積み立てをしていくと聞く。旅費のたまった者から「旅行」に出かけられるのだが、自分の順番がまわってくるのは凡そ人生の半ばを過ぎてから、やもすると晩年になつてからというところもあつたのではないだろうか。

## 法華寺

膨らむ期待を胸に、この六月十八日に先の法華寺を訪ねた。快く我々を迎えてくださったご住職は、期待通りに、寺の西側に間違ひなく神社があつたこと、そして、その神社の一部が社として今も境内に存在することなどをご披露くださった。しかし、残念なことに、寺に伝わる史料は、昭和二十年六月十五日の豊中空襲の戦火により灰燼に帰したことで、伊勢参りの様子をはじめ伊勢街道の起点といったことに迫る資料は確認できなかった。



## 繋がる道

日本中に数多あるであろう「伊勢街道」。今回の調べで、かつて原田、岡山、福井(今の曾根界隈)の者は、およそ次のような道を伊勢へと急いだことがうかがえた。すなわち、少なくとも法華寺の東から始まる道があり、今の一中の校庭を西門から東門へ抜け、道なりに東へと進んで、文化芸術センター南側の道を通りほどなく左折。左に西琳寺を見ながら右に建つおかげ燈籠を右折して歩を進め、国道を越えて、藤井寺北側の道をさらに進み、左に建つさわ病院の玄関あたりに行きつく。ここは、先のおかげ燈籠を北進するの



## 謝辞

郷土資料室の浅田尚子様、中村ひさ子様にはお忙しい中、豊富な資料と丁寧なご説明を頂戴した。さらに、曾根から見ると能勢街道だが、能勢の商人や住人にとっては大坂・大阪街道であるといったような気づきをいただいた。また、法華寺ご住職には、歴史から社会情勢にいたるまで、時空の繋がりを説いていただいたのみならず、境内の隅々までご案内いただいた。稿を終えるにあたり、皆さまのご厚意に深甚の謝意を申しあげます。



と同様、北へ向かうと能勢に至る道(能勢街道)と交わる要所のひとつであるが、参詣者たちは、このあたりをもっと東へと進み、西願寺橋を越えて住吉神社の南側に

生活道でもあった地域の細道から広がる壮大な旅。皆さんも、往時に思いを馳せながら、少し散歩されてはいかがだろうか。

## 愛馬「ホトギス」の塚

伊勢街道の取材で訪問させて頂いた、曾根西町二丁目にある法華寺のご住職より社会や歴史にまつわるお話を伺う中で、興味深いお話がありましたので、ご紹介させていただきます。

法華寺のご住職よりお聞きいたしました寺の伝承によりますと、二代将軍秀忠の愛馬とされる「ホトギス」が老衰のため大坂でなくなったので、重臣で当時大坂城代であった阿部正次の臣下近藤五郎左衛門から、是非手厚く弔ってほしいと、法華寺の日雄上人に依頼があり、同寺西の八幡神社に「ホトギスの塚」を作り手厚く供養した、という言い伝えがあるそうです。

現在は、明治初めの神仏分離令でこの神社は取り壊されて、周辺十数か村の神社とともに、府社に昇格した原田神社に合祀されましたので、現在はその場所には何も残っていませんが、地藏尊などとともに、この「乱れ積み」で積まれた石積み、隣にあった神社に祭られていた「ホトギスの塚」を法華寺に移築したものであると伝承されているそうです。

村の古老たちは、この塚のことを、親しみを込めて、「お馬さん」と呼び習わしていたとお話でした。



ありがとう信金。昭和29年に豊中信用金庫の支店として、曾根駅前開設されてから64年。今年、11月8日をもって営業を終了し、岡町に新築中の豊中支店に統合される。この間、金融機関の統廃合も進められ、水都信用金庫、摂津水都信用金庫、北おおさか信用金庫と名称を変えながら、曾根の経済、市民生活を支え続けていただいた。

決して美辞麗句ではない。私たち「まちづくり研究会」の口座開設に加え、曾根サマーフェスティバルにもご協力いただいた。かつては信金の二階を借りて毎年会議を繰り返していたが、職員ロッカーのあるようなプライベートな空間を提供していただいたうえに、会議が長引き午後三時を過ぎてしまい、専用通路から出していたいただいたこともあった。祭り当日には、残暑の厳しい土曜日にもかかわらず、夕方から五時間、多いときには八名ほどもご協力いただいたらうか、立ちずくめの警備をにごやかに務めてくださった。

古き良き時代、商売のためなどと言われればそれまでだが、私たちはそうは思わない。ここに、紙面を割いて、ふり返りの一端を披露させていただくことで、感謝の意を表したい。

## 縁の下の信金

**会長挨拶**

平素は、曾根まちづくり研究会の活動にご理解とご協力をいただき誠にありがとうございます。五月十四日に中央公民館において多くの会員出席のもと令和元年度総会を開催いたしました。

私も会長をお引き受けしてから、二年目になり、何から頑張ろうかと思いましたが、心配することなく、役員の方々からアドバイスをもらい、おかげでスムーズに活動を進めています。今年も曾根サマーフェスティバルが二十六回目を迎えます。曾根まちづくり研究会も協力しながら盛り上げていきたいと思っております。

豊中市立文化芸術センターへ、「夢の樹ひろば」「夢の樹とおりの」前をイルミネーションにそって歩かれる姿を見られるのが嬉しいです。イルミネーションの維持には修理等の費用もかさみますが、ほっとする樹々のイルミネーションをできるだけ長く輝かせることを心がけてまいります。

今後とも曾根まちづくり研究会にご支援のほど宜しくお願い申し上げます。



曾根まちづくり研究会  
会長 **井田 静子**

**平成30年度活動報告**

●8月25日/ないす曾根23号発行 ●8月25日/曾根サマーフェスティバル2018開催

**令和元年度活動計画 【5月14日 総会、活動指針の策定】**

①「夢の樹ひろば・夢の樹とおりの」活用②サマーフェスティバルの充実③光のライン構想の推進④曾根の歴史の探求⑤ないす曾根の発行

令和元年5月14日(土曜日)、豊中市立中央公民館において今年度定期総会が開催されました。まず初めに、井田会長の挨拶と新入会員の紹介及び自己紹介が行われました。その後出席者と委任状の提出数により、会則に基づく定足数が満たされていることが確認され、総会が始まりました。平成30年度活動報告、平成30年度会計報告、会計監査報告が行われ、承認されました。引き続き役員の変更と、令和元年度活動計画案、令和元年度予算案が提案され、承認されました。滞りなく会は進行し、全てのプログラムを終了しました。

**防犯カメラ**

**SECURITY SYSTEM**

相次ぐ事故や事件を受けて通学路の改善や子どもたちの安全確保を求める声が高まっています。保護者や大人だけでは十分な見守りができない中で、事故や犯罪の抑止効果、また有事の際の素早い犯人検挙への期待を込めて近年防犯カメラの設置が広がっています。



豊中市でも自治会で行われる自発的な防犯活動を支援するため、平成22年度に「自治会に対する防犯カメラ設置補助金制度」を設けており、新規設置に伴う購入費などの助成を毎年行っています(対象事業経費の2分の1補助)。令和元年度の予算は100万円でしたが、補助金の合計額が予算額に達したため既に受付は終了しています(来年度も継続)。

また、平成28年度には「暮らし安心・安全見守りカメラ設置事業」が新設され、地域の防犯協議会やPTAとの連携のもと、各小学校区において通学路を中心に約30台ずつ、二カ年で計1,230台の設置が終わりました(平成29年度事業完了)。ちなみに商業団体に対する事業費の補助制度でも防犯カメラは対象となっています(事業費の5%補助)。

さて、曾根駅前の安全の確保は地域の活性化にとって欠かすことができない重要な要素です。地域の皆さんの想いも込めて実現したイルミネーションがいたずらにより破損するという悲しい経験もしてきました。優しさがあふれる駅前づくりに向け、曾根まちづくり研究会としても防犯カメラ設置に向けた議論を重ねていきたいと考えています。

**26th Anniversary** 楽しいよ!  
日時 **2019年8月24日[土]** ※雨天決行、荒天中止  
17:00~22:00  
**曾根サマーフェスティバル2019**



**■特設ステージ(夢の樹とおりの)** 司会/青芝フック氏

**PM 5:00~**  
●オープニングセレモニー  
●豊中市立第一中学校スクールバンド部  
●開会宣言・実行委員長挨拶

**PM 5:45~**  
●長興寺太鼓連(華一番)  
●南塚小フラダンス(みなさく子供教室)  
●ダンス(岡町・曾根ダンススクール)  
●ゴスペル(ハッピーデー)  
●ママさんストリートダンス(HMD)  
●キッズチアダンス(スマイリース)

**※今回ビンゴゲーム大会は開催いたしません。**

●特設ステージ 池田泉州銀行前広場  
●サブステージ 夢の樹広場(噴水前)  
●模擬店・遊戯コーナー  
ファミールソネ前広場・イーステラス前広場  
コマウィング前広場

**PM 7:45~** 民謡・盆踊り 大賀流社中(オリジナルソング 曾根夢の樹音頭 他)  
ゲスト/キングレコード歌手 **南山正義さん**  
●皆さんで輪になって踊りましょう!

**■サブステージ(夢の樹ひろば 噴水前)**

**PM 6:00~**  
●キッズチアダンス(豊CHEER FAMILY)  
●ジャグリング(豊中四中大道芸部) ●ダンス(豊中四中)  
●パナ(フリースタイルフットボール)& ミュージック(クリアドール)  
●ギタスナ練習部合奏(ギタスナ練習部) ●沖縄イベント ●バンド

※当日都合により来賓挨拶等を組み入れることがあります。  
※ステージの進行上時間通り行えない場合がありますのであらかじめご了承下さい。  
※車両通行止はPM5:00~PM10:00迄

**編集後記** 就任2年目に入った井田会長の下、地域の交流と活性化に向け、曾根に暮らす女性としての感性を活かしたまちづくりが始まろうとしています。今後とも、皆様のご支援をいただきますようお願い申し上げます。